

第6回草津市総合計画策定委員会概要		
日 時	平成21年2月5日（木）16時00分～17時35分	
会 場	庁議室	
出席者	橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、岩井委員、片岡委員、鎌田委員、林田委員、北川委員、矢内委員、加藤委員、中島委員、善利委員、多々良委員、稲田委員、奥村委員、上寺委員、田村委員、森委員、岸本委員	

## 1. 開会

## 2. 議事

### 第5次草津市総合計画検討資料【現況課題、基本構想（草案）】について

事務局より説明

《意見等》

- ・ 主要な課題「人が学び育つ環境を」で「家庭や学校だけで子どもの育ちを守ることが厳しくなっている」とあり、そのとおりであり、地域等との連携も大切であるが、学校教員や家庭での教育力の向上を重要課題として押さえなければならない。
- ・ 人口はまちづくりの基本的要素であり、人口フレームは推計値を踏まえて10年後の目標を示すものではないのか。自然増に任せるというのも一つの方策ではあるが。  
→かつては約1%の人口増加が適当であるとしてインフラ整備を進めたが、全国的な人口減少の時代を迎えるなかで、草津市の場合には幸い推計上減少には至らない。まずはこの活力を維持することが大切である。また、人口を上下することはインフラ整備を左右するものであり、現在はよりシビアに考えなければならない。このため、他の自治体においても人口の見とおしで止めている。「人口フレーム」という言葉を使用しているのは、人口の伸びがあるからである。
- ・ 全国的な少子高齢化の中で人口拡大を図らないと限界集落など様々な問題が生じてくる。草津市の特性としては10年間まだ人口は増加するであろうと。逆に無秩序な開発によって人口がどんどん増加することによって、かえって住みにくいまちになるのであれば、人口を抑制していかなければいけない。そういう無秩序な開発を抑えた中で、暮らしやすいまちは今の人口推計のなかで可能ということか。  
→前回の総合計画と同じ数字ですので、もともとインフラ整備もそこを考えておこなわれている。抑制的には見ている。個人の土地利用の権利もありますし、一方で再開発のニーズが生じてきた場合、これに応えなければならない。
- ・ 「子育て・子育ての応援と熟年世代の社会参加を」のなかで様々な障害を持つ方達のことを入れる必要がある。子ども、高齢者、障害者の支援等は福祉の中でも大きな柱であり重要である。  
→障害のある方に関することは「子育て・子育ての応援と熟年世代の社会参加を」の中で福祉全般として含めている考えであるが、課題の中に具体的な表現を入れるなど、検討する。
- ・ 「歩いて暮らせるまちを」の中では市街地中心部に都市機能を集約的に整備とあるが、「充実した都市機能のいっそうの活用を」の中ではJR草津駅・南草津駅周辺にはまちの中心としての都市機能が集まり・・・とあり矛盾しているのではないか。  
→“基本機能が配置されるよう誘導し、今後も・・・”と続けてはどうか。まだまだ足りないものもあるので、持続可能な省エネルギーの考え方で市街地に住みやすいまちをつくる。ただ、遊ぶとか楽しむといった時間を費やすものは全てがここに有る訳ではなく、完結している訳ではありません。

- ・都市機能という言葉でまとめるから矛盾してくるのではないかと。都市機能には様々な物がある。
  - ・後の方向性もあるが、具体的にどのような施策を実施していくのかをイメージし、実現の可能性を踏まえて考えなければならない。
  - ・「充実した都市機能のいっそうの活用を」の中でこれら都市機能の集積を最大限生かして、新しい産業や雇用を生み出し・・・とあるが、企業立地を誘導していくということを入れて欲しい。昨年12月に企業立地促進法が制定され基本計画の承認を国からいただいた。
  - ・「まちにうるおいと調和を」で、もう少し突っ込んで、楽しいまちと。草津で遊ぶ。色んなレベルで地元の中で楽しむ事を追求していくような何か、草津の地域の中で楽しむ、そういうものを考えていくのもどうかと考える。
- 遊びというのは「地域の特性」の「躍動を続ける草津」の文中で“都市機能の集積によって「働く」「学ぶ」「遊ぶ」など市民生活の多様な広がりによって・・・”でキーワードとして表現している。
- ・主要な課題のなかで「人とまち」「暮らしと活力」「自治と仕組み」があるが、自治と仕組みに対する基本方向がないのでは。
- 基本方向の中に入れることができるか、「総合計画の推進の考え方」というものをあえて起こしているが、ここに推進する考えや姿勢を入れたいと考えており、ここに入るか、基本方向に入れられるかと考えている。
- ・主要な課題のなかで「子育て・子育ての応援と熟年世代の社会参加を」熟年世代とここだけ具体的に書き過ぎているのではないかと。
- 元々は高齢期としていたが、高齢期と言うと65歳以上になる。65歳以上になってから、健康に気をつけたり生きがいを見つけるのではなく、もっと早い段階からウォーミングアップが必要ではないかということで、団塊世代か熟年世代から、もっと早い時期から社会参加をという意味でこういう表現としている。
- ・将来ビジョンのところで「出会いに輝く」の中で“心を遊ばせ”というきれいな表現があるが、どういう意味なのか。「住みごたえ」という表現についてはどうか。
- 「心を遊ばせ」は自由奔放にというイメージで使用している。また、「住みごたえ」は「住みやすさや住み心地」という意味で使用している、造語である。
- ・主要な課題の「出会いによる市民文化の高まりを」で「誰もが“草津を語る”市民」素晴らしいのですが、“まちと人を大切にする市民”としてはどうか。

### 3. その他

#### 市民会議意見の対応について

事務局より説明

《意見等》

- ・市民会議の中で高齢者と子供の意見はあるのだが、障害者に関する意見が少ないのではないかと。
- 分野別に市民会議の委員を設けている。また、審議会においても、福祉部門の委員さんに入っ  
ていただいております、一定御意見をいただいておりますところである。

#### 座・でいすかす報告書について

事務局より説明

以 上